

このようにすることで子供たちは、最初の自分の考えと他者の考えをより意識するようになり、自分の考えの変容を捉えることができるようになってきた。また、自分の考えに固執せず、考えを付加・修正する子供も増え、他者の考えを理解しようとする意識が高まってきた。

このように、複式学級のよさを生かした指導を行うことで、次のような効果が期待される。

複式学級のよさを生かした指導	期待される効果
え	変容を捉えていない子供には、最終的な考えを聞き取りながら、最初の考えを比べさせることで、自分で変容を捉えることができるようになる。

(3) 自分の考えの変容とその要因の振り返り

(関連する複式学級のよさを生かした指導 う え)

<学びの自覚化>を図るために、最初の考えと最終的な考えを比較させることで、自分の考えの変容を実感させている。

自分の考えの変容を実感させるために、まず、授業を通してできるようになったことを振り返らせ、次に、自分の考えの変容や要因まで捉えさせている。その際、できるようになったこと、考えの変容、変容の要因の三つの視点(資料11)から、発達の段階や学習内容等に合わせて選択し、書いたり話したりさせている。また、話合いや他者と一緒に学習するよさに気付いた子供を称賛し、価値付けを行っている。

このようにすることで、これまでできるようになったことのみを振り返って子供が、変容の要因まで振り返るようになってきた。また、変容の要因を振り返る中で、他者の考えのよさに気づき、話合いや他者との関わりの大切さを実感している子供が増えてきた。

【資料11 振り返りの三つの視点と振り返りの例文】

第六学年国語科
「時計の時間と心の時間」の振り返り文

③
話合いの中で、～さんの◎◎の考えが私の考えより分かりやすいと思ったからです。
(変容の要因)

①	○	○	が	で	き	る	よ	う	に	な	り	ま	し	た。
②	最	初	は	△	△	だ	と	考	え	て	い	た	け	れ
③	話	合	い	の	中	で	、	～	さ	ん	の	◎	◎	の
④	考	え	が	私	の	考	え	よ	り	分	か	り	よ	う
⑤	思	っ	た	か	ら	で	す	。	(変	容	の	要	因
⑥)	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。	。

①
○○ができるようになりました。
(できるようになったこと)

②
最初は△△だと考えていたけれど、□□の考えに変わりました。
(考えの変容)

このように、複式学級のよさを生かした指導を行うことで、次のような効果が期待される。

複式学級のよさを生かした指導	期待される効果
う	異学年の子供同士による振り返りを行うことで、上の学年の子供は前の学年の内容と関連付けた理解ができる。下の学年の子供は、今後の学習の見通しをもちやすくなる。また、下の学年の子供は、上の学年の子供の振り返りの仕方を学ぶことができる。
え	変容を実感できていない子供には、最初の考えまでを教師と一緒に三つの視点で整理しながら振り返らせることで、自分で変容を実感できるようになる。